

石クリ通信

2月号

AI診療 院長 石川 悟

先日35歳の男性が側腹部痛と血尿の症状で来院しました。泌尿器科医としては尿管結石だろうと比較的簡単に想像が付きまします。さてグーグルのAIモドで試みに検索してみました。質問「35歳男性、側腹部痛と血尿、考えられる疾患は？」答えは1.尿管結石や腎結石 2.腎盂腎炎などの尿路感染症 3.その他 頻度は低いですが注意が必要とされるのは急性前立腺炎 IgA腎症など腎炎 腎癌など悪性腫瘍、精巣腫瘍、とほぼ完璧な答えでした。次に「35歳男性 突然の側腹部痛と血尿、発熱なし、排尿時痛なし。考えられる疾患は？」と変えると、答えは、最も可能性が高い疾患は尿路結石（尿管結石）と出ました。

「尿管結石の治療は？」の問いには、尿管結石の治療は、結石の大きさや症状の程度によって「保存療法（自然排石）」または「手術療法」が選択されます。2025年現在の診療指針に基づき、主な治療法をまとめます。とあり、ガイドラインに沿った治療法の選択が細かく解説されます。これから医療の現場にどんなAIが使われるようになるでしょう。それによって医者の仕事がなくなる訳ではありませんが、診療の方法が変化するのは間違いないようです。

清掃センター 看護師 澤田 彰子

年末に物置の片付けをしてみかねの清掃センターにゴミを捨てに行きました。指定された場所に分別して捨てていくとブルドーザーがやって来て、捨てたばかりのゴミをすくい上げて別の場所に持って行ってました。長年愛用していたポットや炊飯器が雑に扱われていて、ちよっと悲しくなりました。が、それよりもまだまだ使えそうな物が沢山捨てられている方が、心苦しかったです。

子ネコ 看護助手 柴田 さち子

今年のお正月は娘の家で迎えました。孫が仕事のため、飼っているネコを一週間近く預かりました。やんちゃな子ネコで、高い所に上ったり、カーテンやテレビの後ろに隠れたり、自由に動き回っていました。可愛いけれど預かるのも大変でした。



長崎巡礼紀行 事務長 石川 都

今年の新年は長崎で迎えた。昨年春頃から、長年の夢だった長崎の教会など歴史文化遺産を巡る旅の準備を重ね、英国から帰省中の義妹達や娘家族に留守宅を一任し、シニア二人で思い切った出かけた。旅行は個人予約だったので、全てに手間取った。飛行機の年末予約もコンビニの領収書で搭乗手続きのため、旧人類は不安この上なし。五島フェリーも往復の予約が別の日で、申請する車種車長もレンタカーで未定。長崎港での手続きも乗船法も皆目分からぬまま、まあどうにかなるだろうと腹を括る。ホテルも適当に決め、後は地図とナビ任せ。何とも不確定要素だらけの旅プランだった。仕事納めの夜になってバタバタ準備し、翌早朝に茨城空港から福岡へ、さらにレンタカーで午後には長崎市内に着いた。平和公園から永井隆記念館、浦上天主堂から原爆資料館、二十六聖人記念館へ、観光地ならぬ巡礼地を巡った。爆心地に近い浦上天主堂では被爆八十周年最後のミサ中で、聖堂内は満員の信者と蠟燭の熱気、カトリックの聖地長崎を実感した。

翌朝早々長崎港からフェリーに乗った。年末なので大混雑、貨物トラックから小型車まで、開いた船尾から次々と隙間なく車が積み込まれる。停めたら客室に移動、両側に並ぶフロアの船窓前に私達も陣取り、景色を眺め続けた。五島は長崎のすぐ西なのに、フェリーで三時間以上もかかるのは驚いた。禁教下のキリシタンが長崎から五島へ移り住んだらしいが、航海もさぞ大変だったろう。下五島最大の福江島では、島中で椿が咲いていた。点在する教会のステンドグラスも椿の赤と緑が多く、西日に照らされて美しかった。海辺や山の集落にも小聖堂があり、昔は石積みなど信者手作りの教会もあつたらしい。ここは日本の西端なので、真冬なのに夕方六時頃まで明るく、朝も七時頃まで暗い。泊つたのはワイナリーと天然温泉付で隣はゴルフ場という私達には最高のホテルで、美味しい料理と温泉を満喫した。島を離れる日には島最大の鬼岳にも登った。帰りもフェリーで四時間かけて長崎に戻り、新年は大村湾の琴海パサージュで迎えた。ここも湾を一望するホテルで、部屋風呂がオーシャンビューで、新年0時には花火が上がった。七時半近くの初日の出を拝みながら朝食を摂り、元旦ゴルフで初打ちをした。この頃から天候が下り坂で、夜は雪の予報、翌朝には雪が積もっていた。雪の舞う中、雲仙の麓の小浜から南島原に向かった。島原半島先端の原城址を散策し、当時の島原の乱や天草四郎に想いを馳せた。その後小浜からバスに乗り換えて雲仙まで上った。ホテルは雲仙地獄の真正面で、白い岩肌からポコポコ水蒸気の上がる不気味な光景に驚いた。ラウンジでワインを飲んだが、禁教下のキリシタンの拷問殉教の地を眺めながら寛ぐのも何だか憚られた。ここにも地獄眺望の源泉かけ流し部屋風呂があつたが、硫黄の臭いが立ち込めて体も火照り、何だか落ち着かなかつた。これほどの硫化水素に日々包まれていたら、果たして健康に良いのか悪いのか分らないと思つた。雲仙は普賢岳の噴火も記憶に新しく、まさに活火山ならではの保養地だった。

今回の長崎巡礼で、今年年女の私の夢も満願成就し、感無量だった。これからも時々日常を離れ、旅でリフレッシュしたいと思つている。

我が家の冬の風物詩 事務 吉田 政子

今年のお正月は何年かぶりに、家族全員が集まって食卓を囲みました。「冬の風物詩といえは、みんなは何を思い浮かべる？」と問いかければ、「おでん、お雑煮、すき焼き、寄せ鍋、カニ、湯豆腐、こたつに入って食べるみかん」などと気がつければ、返事は全部食べ物ばかり、みんな笑ってしまいました。寒い外から家に帰った時、家の中に漂う料理の湯気や匂いは、寒さで固まった体をほぐしてくれそうです。そんな何気ない会話と湯気の立つ食卓こそ、我が家の冬の風物詩だと感じた楽しいお正月でした。

枯らさないように 事務 森 多加子

最近見つけた水戸にある小さなお花屋さんには、あまり見たことのないお花が沢山あります。先日水戸に出掛けたついでに寄ってみると、とても可愛らしい鉢植えの花がありました。「プレミアムプリムラジュリアン」と言う花でした。何色かあつた中からピンク系の物を選び、購入しました。枯らさないように大事に育てたいと思ひます。



初日の出 看護助手 太田 小百合

今年はお田尻浜から初日の出を見ました。何度見ても、どこで見ても、日の出の瞬間はいいものですね。手が合せて「ありがとうございます」と心から思える時間でした。

